多摩アマビ会報

発行２０１６年１０月８日　第１５４号
NHK 多摩アマチュアビデオクラブ
電話０４６－２８１－４０２１

公開セミナー『誰でも出来る感動作品』

今年度の公開セミナーは、陣野秀明氏にお願いして９月 １０日（土）午後 1 時 30 分から 5 時まで、立川センタービルの NHK 西東京営業センター会議室で行われました。参加者数は３８名（当クラブ会員１４名、外部聴講者２４名）でした。陣野秀明氏はアマチュアビデオ作品を通して広く活躍され、現在、ビデオサロンにもビデオ制作講座が連載されています。当日はビデオ作品を上映しながら膨大な作品の分析による数字をもとに、どのような構成にすると人を感動させる作品になるか説明されました。

ここでいう感動作品とは”良かった・面白かった“と思える作品を意味する。映像勉強会を通して映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどを分析して感動する作品の共通点を探した。

人が感動する作品⇔人が飽きない作品⇔変化に富んだ作品

・①変化に富んだ物語

1 段構成作品とは本編だけのものである。これに対して 3 段構成作品は最初に紹介や背景・動機があり、次に本編、最後に思い、願い、主張でまとめるもの。時間としてはそれぞれ１／４，２／４，１／４くらいが目安となる。たとえば８分作品の場合、最初の紹介などが２分、本編が４分、最後の思いなどが２分くらいになる。具体的な同じ内容の１段と３段構成作品を上映してその違いを解説。このように構成を工夫することによって、過去に作った作品も化けることが可能になる。紹介や思いを入れることによって個性のある作品になる。

・②変化に富んだ映像=話題

テレビドキュメンタリーを分析したところ、話題の区切りが平均して７０秒でつながっていくことがわかった。自然ものと人物中心のもの８番組を比較しても同じような結果になった。映画４本を分析したところ、３本は８０秒くらい、１本は１４０秒だった。ただし、１４０秒のものは見ていてかなり飽きるように感じた。逆に短すぎるものは区切りにならないことがあり、他の話題に同化してしまう。クライマックスは人物を持ってきたほうが理解されやすい。

・③変化に富んだ音声

テレビドキュメンタリーを分析した結果、音楽は約５０％使用されていた。自然ものと人物ものを比較した場合、人物ものは音楽の比率が低くなる。これは語りなどで音楽を使用しない部分が必然的に多くなる。現場音と音楽を交互に使用したほうが変化に富み、耳が飽きない作品になる。話題転換と音声転換が連動している。話題が変わって同じ音楽が流れる作品はないようだ。

・④変化に富んだ語り

語りはおおむね４０％くらいがいいようである。これも自然ものと人物ものでは異なり、人物ものは少なくなる。人物ものではインタビューなどが入って、語りの比率が下がる。語りが６０％を超えるとうるさく感じるようになる。また、アマチュア作品を見た限り、音楽や語りは多いより少ないほうが良い場合が多かった。

・⑤作品が大化けする

ここまでやっても感動作品にならない場合がある。それは最後のクライマックスが重要で、その内容によって紙一重で感動できないものがある。クライマックスは物より人をクローズアップする。動物などは擬人化して感性に訴える。

・質疑応答

Ｑ 音楽と現場音を交互にとあったが、音楽は別々のものを使用したほうが良いか？

Ａ 音楽はすべて別のものを使用する必要はない。現場音を生かすのもいいのではないか。

Ｑ アマチュア作品では音楽を選択するのも制約があり、難しい。

Ａ １つの作品で使用するのはせいぜい３曲くらいで、著作権フリーのもので十分対応できる。

Ｑ 同じ話題で音楽を使用して、語りを入れる時はレベルを下げてやっているが、問題はないか。

Ａ レベルを下げるのは推奨しない。音楽全体のレベルを下げて、自分の声が負けない曲を使用する。音楽をその都度上げたり下げたりすると、聞いているほうもわかってしまう。自然になだらかに下げるのは良い。語りが一番重要なので、語りがわかるように全体のレベルを設定する。

Ｑ 語りだけで不十分な場合、テロップをスクロールで流すのはどうか。

Ａ 語りで耳に負担をかけ、スクロールで走っている文字を見ると負担が大きすぎてしまう。わかりにくい単語だけをテロップにしたほうがいいのでは。語らないとわからないから語りを多くしているという人がいるが、多すぎると聞かなくなってしまう。短い言葉でズバッというのが良い。１文章３０文字くらいで、文章の区切りは余裕を持たせて語る。

この他にも熱心に質問をいただき、会場は最後まで盛り上がっていました。
陣野さん、ありがとうございました！

１１月例会のお知らせ

１１月１２日（土）午後１時３０分～５時

神野さんの講習を受けて撮影に編集に意欲を燃やしていることと思います。さてそれで、撮影会を開催したいと思いますので候補地をいくつか挙げて頂き議論いたしましょう。

（編集後記）

２年ぶりの公開セミナーでは、多くの参加者が聞き入っていました。ビデオサロンにて陣野氏の連載記事が始まったところで、ちょうど良いタイミングでした。連載記事も併せてご覧いただきますと、ますますいい作品が出来るかもしれません。

（荒木　勉　記）